

## 試験研究活動情勢報告（平成 30 年 3 月分）

## 【果樹試験場】

## 少加温施設グレープフルーツの栽培に関する研究



着果状況と果実断面

グレープフルーツは文旦とオレンジの交雑種とされ、北米や南アフリカなど世界各地で栽培されています。熱帯性果樹で病気に弱いため日本での栽培は難しく、輸入品がほとんどです。一方、認知度も高く、高品質で安心安全な国産を望む声があります。

そこで、高知県の少加温施設で栽培できる技術開発に取り組んでいます。現在は、国内でも人気が高い‘スタールビー’という品種について収穫適期を探るため経時的に果実調査を行っています。

## 「土佐文旦」における野囲い貯蔵資材の検討

野囲いと  
果実取り出しの様子

「土佐文旦」は通常、寒害を避けるため年内に収穫して、その多くは「野囲い」と呼ばれる貯蔵方法で追熟した後、1月下旬頃より順次出荷されます。「野囲い」では、保温資材として稲わらを使用しますが、近年は稲わらの確保が困難になっています。

そこで、稲わらに代わる保温資材としてアルミプチ（アルミ蒸着気泡緩衝材）と PP ムシロ（ポリプロピレン製）の貯蔵性を調査しました。野囲いから取り出して貯蔵障害を調査した結果、商品性のある果実がアルミプチ 86%、PP ムシロ 80%、稲わら 81%とアルミプチで最も高くなりました。

次年度以降は、引き続き貯蔵障害や果実品質の調査を行うとともに代替資材の耐用年数についても検討する予定です。

